

2024年度 エリアプラットフォーム活動報告

2025/06/16

2024年度の活動の概要（報告事項）

本日の報告事項

4月	「エリアプラットフォーム準備会」発足 官民連携まちづくりに向けた目標や課題の議論を開始
6月	未来ビジョン：地域ヒアリング を開始
7月	未来ビジョン：準備会でワークショップ を行い、議論を深度化 まちづくりの体制、活動に向けた議論を本格化
10月	情報発信・広報：オンラインプラットフォーム（my groove）公開 公共空間の活用：「ハロウィンだよ！登栄会！！×登戸まちなか遊縁地 開催支援
11月	エリプラ設立に向けた説明会を実施
1月	第1回 エリプラ総会： 「登戸・向ヶ丘遊園エリアプラットフォーム」正式発足
3月	情報発信・広報：登戸駅付近の空地（89街区）に掲示板を設置 公共空間の活用：空地（89街区）社会実験「のぼりとみらいトーク」開催 第2回 エリプラ総会： 「未来ビジョン」のテーマ 提示

①エリアプラットフォームの取組み検討

25/1/21 エリアプラットフォーム設立総会

24年4月より、地域有志を中心に「エリアプラットフォーム準備会」の活動を開始
組織構成や取組の検討、ヒアリング・参加呼びかけ・説明会開催などを経て、
25年1月に「登戸・向ヶ丘遊園エリアプラットフォーム」を正式に設立



設立総会の様子

②公共空間の利活用

10/27 ハロウィンだよ！登栄会！！×登戸まちなか遊縁地



ハロウィンだよ！登栄会！！



登戸まちなか遊縁地（登戸2号線）

2号線沿線アンケートの結果概要

- **まちの賑わい・活気が感じられ**、地域の発展に有益な取組みとして評価されている
- 今後も**継続開催、地域のブランド力を向上するイベント**にさらに発展していくことへの**期待**の声が上がっている
- 事前周知・騒音対策・混雑対策など、**イベント運営の課題も指摘**されている

②公共空間の利活用

25/3/11 社会実験「のぼりとみらいひろば」

4つのトークセッション「のぼりとみらいトーク」を実施。
まちづくり掲示板の設置や、キッチンカーで屋外テラスを展開。



テーマ

- ・登戸らしい公共のみらい（市民参加のありかた）
- ・登戸Before-After（地域の歴史/街の変化）
- ・これからの登戸のにぎわい（商業/事業の未来）
- ・公共空間をつかいこなす市民たち（公共空間の利活用）

▶ここで話し合われたキーワードも未来ビジョンに活かします

25/3 登戸2号線 利活用社会実験

登戸2号線の沿道店舗が主体となり、什器の出し入れ・植栽の水やりなどを実施
将来的に「ほこみち制度」による道路利活用を行うことを想定した実験・検証



- 食品を販売する店の前では、店先のベンチやテーブルが飲食や休憩に使用されている
- 店先にベンチやテーブルを設置することで、客数・売上増につながった（広告効果がある）
- 上記の店舗は、今後の什器の継続設置を希望している
- まちづくり組織等による「道路の清掃」「植栽の手入れ」「店の広報につながる機会提供」「什器の破損や汚損に対する補償」などが、道路利活用に向けた有効なサポートになりうる

③情報発信・広報

情報発信サイト my groove の立ち上げ

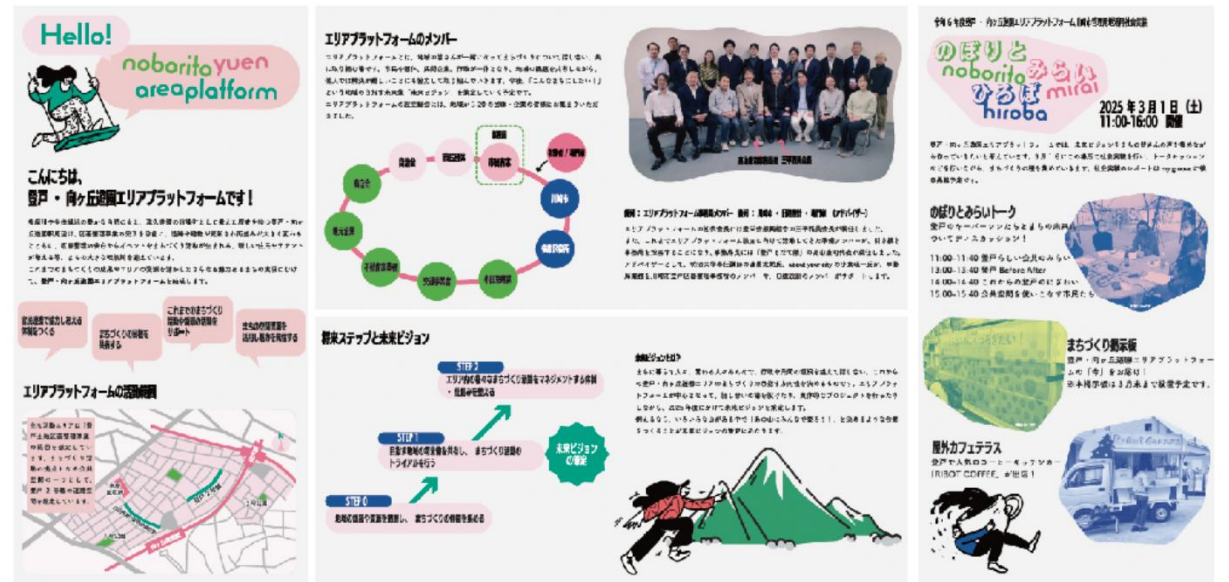


活動報告レポート・インタビュー記事を随時UP

<https://mygroove.city/organizations/18/projects/49>

③情報発信・広報

掲示板および掲示物の設置（89街区）



- ・ エリアプラットフォームの紹介
- ・ インタビュー記事(mygrooveと連動)
- ・ 登戸コミュニティマップ、アンケートを掲示

④「未来ビジョン」検討

未来ビジョンの位置付け

まち全体が同じ方向を見るための
目指す未来の表現

地域の想いを集約した
スローガンと
言葉に乗せた想い

+

目指す未来を実現するための
道筋、方法の整理

スローガンを
かみ砕いた方針と
方針に沿った
具体的な取組や
実現に向けた体制

まちづくりを実践するためのガイド

④「未来ビジョン」検討

地域ヒアリング



**まちづくり活動をしている方や町内会、企業を
中心として19組の方々にヒアリングを行いました。**
2024年夏～秋頃 実施

④「未来ビジョン」検討

エリアプラットフォーム準備会 ワークショップ



事務局会メンバーを中心に**まちの資源と課題、**
今後取り組みたい活動について議論しました

2024年7月11日実施

④「未来ビジョン」検討

ヒアリングやワークショップの結果から、
未来ビジョンの将来像につながるキーワード(仮)を整理
しました。

未来ビジョン将来像 仮案

しなやかに変わり続けるホームタウン

しなやかに変わり続ける・・・

柔軟に変化を受け入れつつ、温故知新のマインドを持ってまちを更新していく

ホームタウン・・・

故郷、育ったまち。ここが生まれ育ちでない人たちも登戸・遊園を愛して
住んだり通ったりしていることを伝えたい

周辺の自然や歴史、多様な地域活動といった地域資源とふれあい、愛着を持った
「ホーム」として感じられるまちにしたい

④「未来ビジョン」検討

ヒアリングやワークショップの結果から、
将来像を実現するための方針についてキーワード(仮)を
整理しました。

将来像を実現する方針・戦略 仮案

【①公共空間利活用】

公共空間の利活用により、
地域資源や文化、まちの賑わい
を感じられる場をつくる

【②商業・ビジネス活性化】

近所のお出かけを通して
生活が豊かになるまちをつくる

【③地域コミュニティ支援】

人と人がゆるやかにつながり、
関わり続けたいくなるまちをつくる

【④情報発信】

周辺の地域とつながり、
相互に魅力を高め発信する

参考

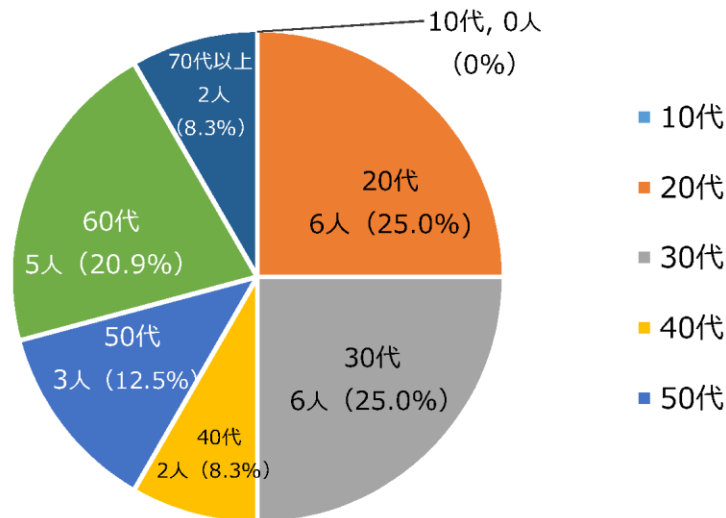
公共空間活用イベントに関する調査結果の詳細

イベントに関するアンケート結果について

■「ハロウィンだよ！登栄会！！×登戸まちなか遊縁地」の開催における、2号線沿線住民に対するアンケート結果（24件の回答）

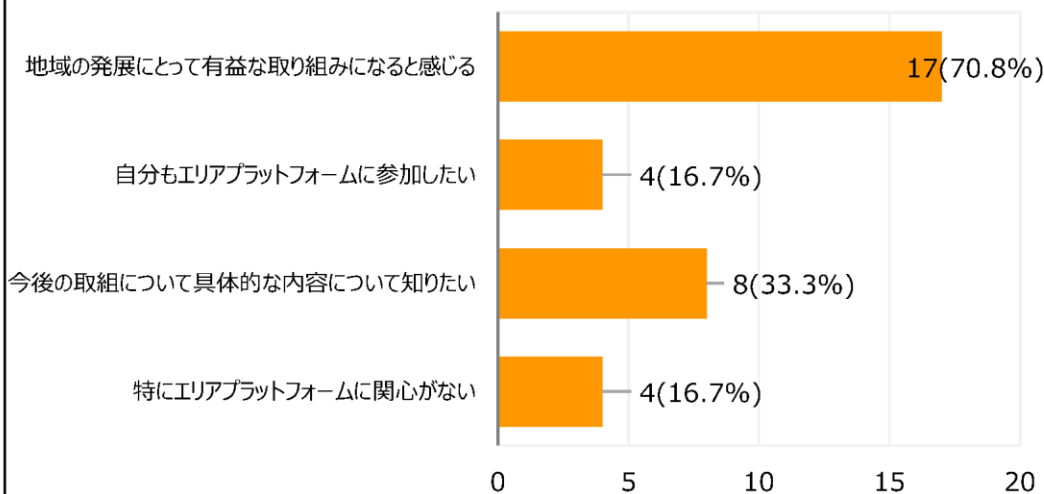
（2024.10のイベント後、2号線沿線の居住者やテナント等にアンケート調査を実施し、24件の回答を得た）

1. あなたの年齢を教えてください



2. エリアプラットフォームについて、どのような印象を持ちますか？

（複数回答可）



3. エリアプラットフォームの今後の取組に期待することや提案があれば

お聞かせください。（自由記述）

● 好意的なご意見・前向きなご提案の要約

・ 賑やかな街づくり

「賑やかな街になって欲しい」「若い世代が賑やかなのは素敵なので継続してほしい」など、まち全体を活気づける取り組みへの期待が高い。

・ 地元中心の企画／ブランド向上

「もっと地元中心で」「地域ならではのブランド力が高まる取り組みを期待」など、住民主体・地域資源を活かした運営を望む声。

・ 子ども・若い世代への配慮

「子どもたちが元気に安全に暮らせる明るい街にしたい」「子ども向け、大人向けと分けて」など、世代ごとの安心・楽しみ方を整備してほしいという提案。

・ チャレンジアブルな企画

「チャレンジアブルな企画と活動を期待する」と、新しい視点や仕掛けでまちを盛り上げるチャレンジを歓迎する意見。

● 否定的なご意見・改善点のご提案の要約

・ 騒音対策の徹底

「音などの騒音に気をつけてほしい」「在宅ワーカーにも配慮を」「音がうるさ過ぎた」など、イベントによる大音量への不満とともに、今後は音量管理を厳格化してほしいという要望。

・ ターゲット別イベントの検討

「子供向けにしか見えない。大人向けと分けて開催を検討してほしい」と、参加者の興味・属性に合わせた企画が必要との指摘。

・ 観光客管理／住民交流重視

「観光客が増えすぎると迷惑。住民交流目的なら賛成」と、過度に来街者を増やすのではなく、地域住民同士のつながりを重視した運営を求める意見。

・ 迷惑行為の排除と予防体制の強化

「爆音被害、私有地無断進入、植栽破壊なども発生。迷惑をかける団体は排除してほしい」と、トラブル防止策と参加者選定基準の厳格化を要望。

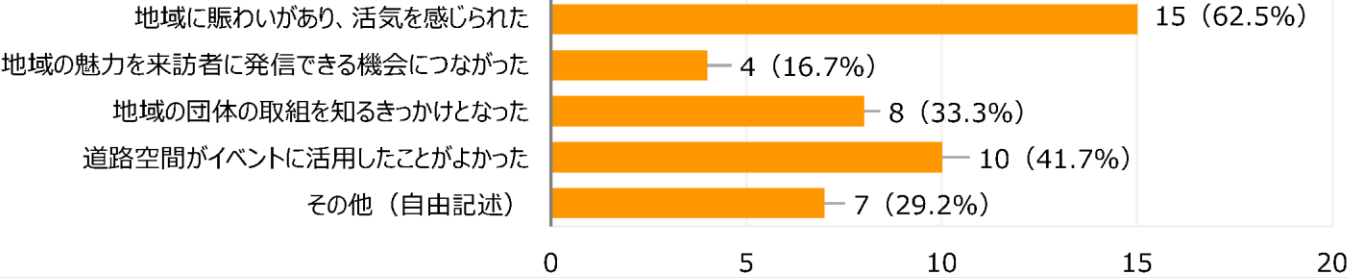
※（ ）内は全回答者24件中の占める割合

イベントに関するアンケート結果について

■「ハロウィンだよ！登栄会！！×登戸まちなか遊縁地」の開催における、2号線沿線住民に対するアンケート結果（24件の回答） （2024.10のイベント後、2号線沿線の居住者やテナント等にアンケート調査を実施し、24件の回答を得た）

4. 今回のイベントでよかったと感じた点をお聞かせください。

（複数回答可）

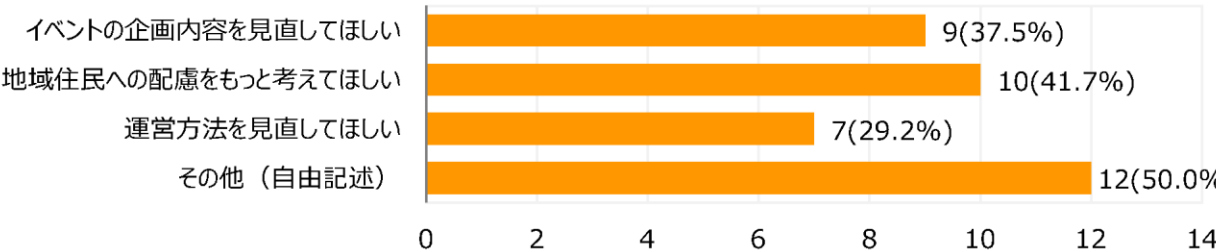


4.でその他と答えた方の主なご意見（自由記述）

- 地域のつながりが感じられた。
- 子供が楽しめてよかった。

5. 今回のイベントで改善してほしい点やご不便を感じた点があれば

教えてください。（複数回答可）

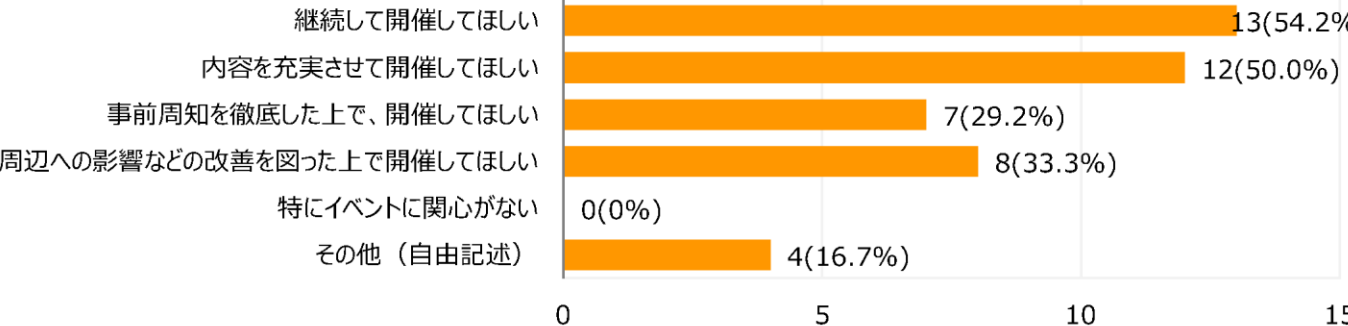


5.でその他と答えた方の主なご意見（自由記述）

- 騒音への苦情：「窓を閉めていても音がうるさかった」など
- 近隣住民への配慮不足：「会場近隣住民の生活に支障がある」など
- 運営体制・責任の不明確さ：「誰が責任者かわからない」など
- 事前説明・告知の不十分さ：「知らずに出かけたら人込みで驚いた」など

6. 今後もイベントを開催していくことについてどう思いますか？

（複数回答可）



6.でその他と答えた方の主なご意見（自由記述）

- 今後の開催への反対：「爆音を出すイベントは絶対にしないほしい」など
- 近隣住民への配慮に対する要望：「住んでいる人が犠牲になる」など

※（ ）内は全回答者24件中の占める割合

のぼりとみらいトーク：まちの課題

①公共空間の使うハードルの高さ

空き地や道路を使う際、申請ルートが分かりづらく、担当者に顔が利く人しか使えないというような閉鎖性が課題。手続きのためのワンストップ窓口や見える化で敷居を下げる必要がある

②小規模な個人店の減少、不足

区画整理によって古い店舗物件が減り、建て替えに伴って賃料が上昇したことで特に賃貸で経営していた老舗や小さな個人店が撤退した。また、2号線沿いはテナント規模が大きいことや工事の長期化で人通りも少ないため空きテナントが埋まらない状況が続いている課題がある。女性や子育て世代が気軽に立ち寄れる飲食店や、夜に出かけるバーなどの場所が少ないという声もある。

③ベッドタウン化への懸念

昼夜間人口比率が高く、昼間登戸で働く人が少ない。飲食店も昼間の売上が夜に比べて少なく、街にいる人の多様性が低いことが課題

④コミュニティの希薄化・新旧住民のギャップ

少し上の世代に比べて、今の現役世代の横のつながりが少なく、個人情報という理由で遮断されてしまいがちな街の情報が知りづらい。また、再開発や新築マンションの増加で大量の転入者が見込まれる一方で、顔の見える関係性が失われつつあり、コミュニティの再構築が課題

⑤地域資源・歴史の継承

区画整理前の町並みや商店街の記憶を残し、物語として共有する仕組みが不足している。従前の小規模・個性派店舗が点在する景観や、果樹園などがある余白のある風景の継承が課題

のぼりとみらいトーク：未来ビジョンに向けた提案 1/2

①まちを使うためのガイドライン作成+ワンストップ窓口の整備

公共空間や空き地（川崎市管理用地）を市民が使うためのガイドラインとワンストップ窓口を整備する。使い方や申請手順を示したハンドブックを作って頒布する啓発的なものから、各種申請を一括して代行するという本格的なものまで考えられる。

▶参考事例：つくばペデカフェプロジェクト、静岡市エリアマネジメントガイドライン

②多様なシーンを支える商業・オフィスミックス

登戸は利便性の高さから、住宅地としての吸引力が強くベッドタウン化が進んでいる。日中のにぎわいを取り戻すために、リモートワークや副業といった新しい働き方に対応したスモールオフィスや小商いの場を増やす。シェアスペースやポップアップストアなど、新しいビジネスを試せる仕組みを整え、地域のクリエイターや若い起業家が第一歩を踏み出せる土壌を用意する。

▶参考事例：BUKATSUDO（横浜市）、櫂の音テラス（練馬区）

③空き地の「暮らしの広場」化

川崎市管理用地「イツモの空き地」は、「のぼりと園芸部」や「多摩区ままのわ」の活動拠点として憩いと交流を生む好例となった。この例のように、最小限の投資で安全・快適な環境を整え、誰もが使える“暮らしの広場”として暫定開放する取組を広げる。市民は農園や青空市、遊び場など多彩な活動を自主運営でき、地域コミュニティとまちなかの賑わいが持続的に育まれる。

▶参考事例：.みんなのひろば（松山市）、わいわい!! コンテナ（佐賀市）

のぼりとみらいトーク：未来ビジョンに向けた提案 2/2

④「寛容さ」を核としたコミュニティ醸成

登戸では住民本屋や哲学カフェなど多彩な市民活動が芽生えているが、白いハコ閉店や空き地の開発で拠点と余白が減り、活動の継続が課題である。楽しさを動機に自発的に集う場を守り、孤立を防ぎ、新旧住民が混ざるには、“寛容さ”を軸に誰でも関われる仕組みが求められている。寛容な余白こそが人を市民へと変え、まちを共につくる原動力になる。

▶参考事例：春日台センターセンター（神奈川県愛甲郡愛川町）

▶参考：地方創生のファクターX 寛容と幸福の地方論（LIFULL総研 調査レポート）

⑤ローカルヒストリーの可視化

区画整理後に転入した新住民と旧来住民のあいだには、暮らしの接点だけでなく、かつての風景や記憶の共有がほとんどない。ローカルヒストリーを可視化し、共通の語彙をつくる好機である。津久井道沿いの歴史遺産や、近過去の商店などを図示した「歴史マップ」や、旧住民がガイド役となるまち歩きツアーを企画すれば、追体験を通じて互いの距離が縮まり、未来を語る際の土台が生まれる。

▶参考事例：長崎さるく、石巻まちあるきマップ+石巻の歴史ガイド

2号線社会実験に関する個別意見

2号線の社会実験への参加店舗へのアンケートの自由記述・ヒアリングで得られた意見

○什器設置の効果について

- 外で食べられる方が増えたので、お店の存在に気付いてくれる方が増えた。
- 什器を設置した事で遠くからでも店舗がある事が分かりやすくなったと感じた。具体的な人数は不明であるが、設置後に明らかに来客数が増えた印象である。
- 気軽に使えて意匠としても目を引くハイテーブルや常設で運用可能なベンチは魅力的に感じた。

○什器設置に関する課題

- 道路と店の位置関係上、店の真正面にはテーブルセットを置けないことは課題である。
- 今後、長期的に設置する場合には、事故などの責任が明確化が必要である。
- ハイテーブルの出し入れは、さほど負担には感じない。急な雨で営業中に仕舞うときなどは、やや負担に感じる。
- テーブルセットの出し入れが想定以上に力仕事であったため、可能であれば出しっぱなしにしたい（※）。営業時間内のみ店先に出す運用とする場合は、来客が増えるタイミングのみ（休日等）に限定したい。
- ※風で飛ばされないよう、ある程度重量のあるテーブルセットを使用している状況

○植栽管理に関する課題

- 今後も継続するとなると、水やりが負担が大きい。落ち葉掃除程度であれば作業量によっては負担可能。
- プランターのサイズが大きいので、水遣り作業に時間を要している。今後暑い時期に毎日水遣りをするのが手間になる事が想像される。
- 今は水道代を店舗が負担している状態だが、公共貢献的な意味合いがあるのであれば分担したい。
- 落ち葉掃きや枝の剪定が出てきた場合の手間や、それらを事業ゴミとして処分する負担が気になる